



ツバヰの枝から、僕を見下ろしている。飛行中にバランスや舵を取る尻尾は長い



前脚と後脚、尻尾につながった飛膜を広げて滑空する

湖国のフィールドから
動物写真家 須藤一成

動物写真家 須藤一成

8



すどう・かすなり 1961年、京都府夜久野町（現福知山市）生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影を取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』（平



暗闇とともに樹洞から姿を現す

11月 ムササビ

飛膜全開 暗がり待ち滑空

は植物食で、木の葉や花・果実・種子などを食べる。食事場所が遠方の時には、木から木へ滑空と木登りを繰り返して到達するので、ほとんど地上を歩くことはない。

ムササビの撮影には、ライトが必要だ。ムササビを警戒させないように、薄暗いライトで照らして探す。薄暗い光ではムササビの姿を確認するのは難しいが、ムササビの目が光を反射して、小さなライドでこちらを照らし返している

他の果実の部分をだし、一粒ずつ剥いていたのだつた。ムササビを探して、あちこちを照らしている僕を見て、「私はこいだよ」とからかうつてみたくなつたのかもしだい。

ムササビを観察するつもりが、ムササビに観察されていだとは情けない。しかし、感覚の鋭い野生動物たちは、人間に気付かれずにいつもそつと人間を観察しているに違ひない。思い当たる節はいくつもある。

木から木へ空中を滑空する哺乳類がいる。ムササビだ。木のてっぺんから飛び出し、前脚と後ろ脚、長い尻尾でバランスや舵を取りながら、100m以上も滑空することができる。

ムササビは夜行性だ。脣間は、ねぐらや巣穴にしている樹洞で眠っている。日没後、樹洞から出てくるのは人間の目では確認できないうど暗くなつた時である。ムササビはいつも正確にその暗さになつた時に活動を始める。時間ではなく明るさ（暗さ）で活動が開始されるのだ。ほんの少し早く出て来てくれたなら、肉眼でもなんとなく確認できるのだが、思うようにいかないのが野生動物だ。

よう輝くので居場所が分かる。

ムササビは平野部から山地帯までの樹林に広く生息している。集落に近くても、大木が残る鎮守の杜にはたいていムササビが棲んでいる。ライトを頼りに撮影していると、まわりはあまり見えない。夢中で撮影していく、突然僕の近くに人がいることに気付いてびっくりしたことがあった。夜な夜な撮影していることを聞きつけた近所の人が、撮影の邪魔をしないようにそっと僕の後ろから一緒に観察をしていたのだった。

またある時には、ムササビを失つて探していると、頭の上に何かゴミのようなものが降つて来た。見上げると、頭上の手が届きそうなツバキの枝にムササビがいるではないか。ムササビは椿油の詰まつた種子を食べるため、外